

## 内外交差点

# 大きな転換期をチャンスに X Taxiとは何者か?⑨

坂田 敬次郎氏 (X Taxi 広報委員会理事) 9人目/12人



はじめまして。山口第一グループの代表取締役社長、そしてX Taxiで昨年度はDX委員長、今年度から広報委員会の理事を務めます、坂田敬次郎と申します。弊社は山口県の西部の5つの交通圏でタクシー事業を営んでおります。交通圏の人口も少ない地域で2万人、多い地域でも20万人と典型的な地方部で事業を行っております。

さて、まず私とX Taxiとの関わりですが、電腦交通の北島(昇)さんからご紹介いただいたのがきっかけです。当初は時間がある時だけ会に参加するという程度の関わりでしたが、2022年のDX例会で、弊社グループが取り組んでおります、AIデマンド交通(乗合交通)で登壇させていただきその後、DX委員長を拝命し、深く関わらせていただくようになりました。

X Taxiでまず驚いたことは、日本に若いタクシー経営層がこんなにも沢山いるのかということです。業界的に平均年齢が高く、かつ後継ぎがない、自分の代で廃業だという声も少なくないので、非常に驚きました。また、それと同時にまだまだ捨てたもんじゃないと経営者として勇気付けられました。

私自身と弊社に関してですが、幼少期から将来は家業のタクシー会社を継ぐのだろうと漠然と考えており、大学卒業後も経営に関わる仕事がしたく、コンサルティング会社に10年程度勤め、2018年に家業に戻りました。そこで初めてタクシー会社の難しさ、地方の厳しい実態を痛感しました。山口県は人口減、高齢化(35%)、さらに観光客も少ない地域で、ビジネスをする上では中々難易度が高いな—と

感じました。

さらに、社内業務もアナログ要素が多く、労働生産性が向上できず人件費率が高止まりしている状況で、このままではまずい、抜本的に何かしないといけないと焦っておりました。そこで、

「タクシー」という枠に捉われず、「移動」全般を担う会社として、ビジネスモデルを変えるDX化を実現するために、REA(レア)というIT会社を創業しました。REAで開発したAIデマンドシステムを活用して、自社のDX化(新規サービスの運行や業務改善など)を進めております。ちなみに、ここでの取り組み内容を2022年にX TaxiのDX例会でお話をさせていただきました。

業界全体では昨今、ライドシェアの話題が大きく取り上げられております。私が委員長を務めていたDX委員会でDXカンファレンスを開催したのですが、参加者数も多く、かつタクシー業界外からも多くの方にご参加いただき、タクシー業界が注目されていると肌で感じております。

業界的に大きな転換期であり、今まで変わらなかったことが大きく変わろうとしております。私はタクシー経営の幅も広がっていくのではないかと思いますので、逆にこれをチャンスだと捉え業界発展、そしてタクシー会社が日本の移動課題を解決できるようにしていきたいです。そして、そのような前向きにタクシー業界の将来を考えるのがX Taxiです。

これだけ次世代を担う経営層が集まる業界特化型の集まりは稀有な存在です。多くの知を結集して、後継者が羨ましがれる業界にしていきたいと思っております。

一般社団法人 X Taxi

問い合わせ先: info@xtaxi.jp

ホームページ: <https://www.xtaxi.jp/>

